

E&Y は “Thirty six views” と題して展覧会を開催いたします。

—

我々のコレクションは、1985年の創業時からデザイナーのキャラクターや思考など血のような部分を抽出し、その要素を編集しながら作品として発表してきました。我々は協働するデザイナーを選ぶことやコレクションを開発するうえで、プロモーション的な部分や機能面を重要視せず、その時代や社会に生きる若いデザイナーの言語や色気、試みの部分を形象化し発表することに主眼を置いています。

今回、発表するコレクションはエディション作品4点、コレクション作品4点の計8作品ですが、全てのコレクションにおいてデザイナーの資質が強く反映されています。そして、新たなカタログは各コレクション要素を抽出し、対としたビジュアルを油彩や水彩、アクリルで「絵」として描いています。絵画は「作品」という言葉と距離が近いものですが、我々がコレクションのことを「作品」としていることにも繋がっています。

また、その思考をより明確にするために2010年に発表した「HORIZONTAL collection」の延長線上に今があります。それはもの派やミニマル・アートなどのジャンルや定義としての話ではなく、量産された物に対する消費という行為に対して投げかける“気付き”のようなもので、色濃く生産されたデザイナーの分身は、どこまで遠くに届くのか、その消費強度はどの程度のものだろうかといった問いの作品群でした。そしてそれは明確な用途や機能を持ったものでさえも違った景色に見えるかもしれないと、E&Y がレーベルとしてどういった軸足で活動しているかという話であり、フィロソフィーでもあります。

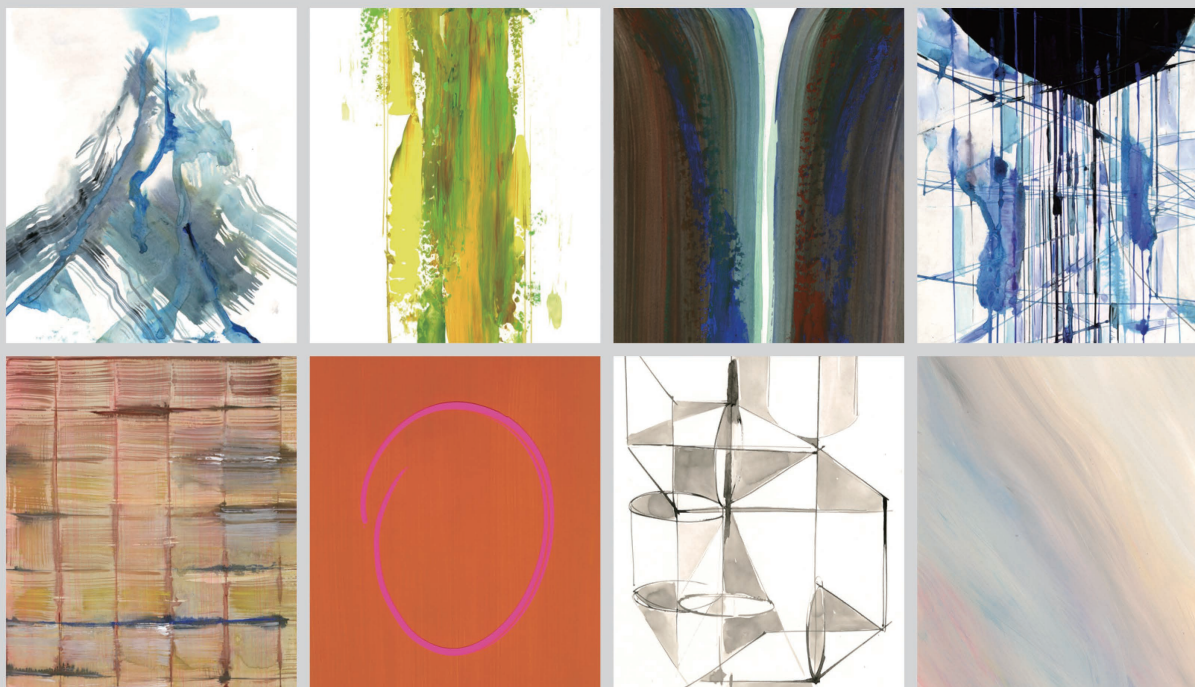
今、歴史上稀な感染症流行と戦争という精神的にとっても難しい時代のなか、世界中のデザイナー達は自身が持っている美意識や欲求、目的を照らし合わせながら、日々どういった考えを持って社会に投げかけるべきかと、迷い、そして強く過ごしています。そんなデザイナーの強さの一部を今回のコレクションでも感じることができると思っています。

是非、ご高覧いただければ幸いです。

E&Y Exhibition 「Thirty-six views」

会場：アクシスギャラリー（東京都 六本木）

開催期間：2022 年 4 月 15 日（金）～ 24 日（日）



Thirty-six views

ファニチャーレーベル E&Y は、2022 年 4 月 15 日（金）～ 24 日（日）、東京 六本木のアクシスギャラリーにて「Thirty-six views」と題した展覧会を開催いたします。

本展では、計 7 名のデザイナーによる、ファニチャーライン 4 作品、限定生産であるエディションライン 4 作品、合計 8 作品を発表いたします。

開催にあわせて、新たなカタログも発表いたします。本カタログには、既存作品から本展で発表する新作までを集録しています。各作品と対になるビジュアルを油絵や水彩で作品の要素を抽出し描くという、コレクションを「作品」と呼ぶ意味をより強調したカタログになります。

本展タイトル「Thirty-six views」は、2021 年に 36 周年を迎えた E&Y が、36 年間の視点を経て今の視点を考えるというだけでなく、三十六が持つ「多数」「全ての方角」という意味を「三十六景」としてカタログの各アイテムの絵との親和性も図っています。

レーベルとして活動している E&Y のメッセージと姿勢を伝える展示に、ぜひご期待ください。

開催概要

【タイトル】	Thirty-six views （日本語表記：サーティーシックスビューズ）
【会 期】	2022 年 4 月 15 日（金）～ 24 日（日）
【時 間】	11:00 ～ 19:00 【最終日 ～ 18:00】
【会 場】	AXIS Gallery 106-0032 東京都港区六本木 5 丁目 17-1- 4F

【参加デザイナー・アーティスト】

ファニチャーコレクションライン	ジュリ・リショズ
	ジュリ・トルバネン
	中村圭佑
	二俣公一
エディションコレクションライン	元木大輔
	中村圭佑・熊谷晃希
	二俣公一
	スズキユウリ

* 本展は、E&Y の 35 周年にあわせ、2020 年にヨーロッパでの開催を予定していました。
COVID-19 の世界的感染拡大により、当初の予定を変更し、この度開催する運びとなりました。

E&Y について

1985 年設立。E&Y は東京を拠点に家具やオブジェクトの編集と開発、製作及び販売を行うファニチャーレーベルです。そのデザインリソースは、日々進化してゆく世界中のデザイナーからによるもので、ミラノやロンドン、東京などの国内外で新作を発表し、コレクションは 50 作品以上になります。また、デザイナーやアーティスト、建築家と共に、プロジェクトの為にアーティスト作品やオリジナルプロダクトの開発も行っています。E&Y の作品の一部は、MoMA（ニューヨーク近代美術館）、ロンドンデザインミュージアム、パリ装飾芸術美術館、スウェーデン国立美術館などに収蔵されています。
<https://www.eandy.com>

Furniture collection line

GINKGO

Julie Richoz

小さなウォールフックです。

自然の造形美へのロマンチックなウィンク。

秋のパリの雄大な銀杏の木との出会いの記憶でもあり、日本での愛情あふれる滞在の記念品です。

開いていた本に落ちた一枚の葉から、日本の伝統的な鋳物で作られた貴重な贈り物へ。



CODE	JR0056
NAME	GINKGO
SIZE	W.75 × D.18.6 × H.123
MATERIAL	Iron
PRICE	¥12,100- (excluding tax : ¥11,000-)



ジュリ・リショズ

スイス系フランス人デザイナー。ローザンヌ美術大学（ECAL）を卒業後、ピエールシャルパンに師事しパリに自身のデザインスタジオを設立。オブジェ、家具、照明、テキスタイルだけでなく、アートピースの製作等幅広く活動を行っている。2017年以降は、ローザンヌ美術大学（ECAL）で工業デザインの講師も務める。主な受賞歴は、Design Parade でのグランプリ（2012）、Swiss Design Awards（2015/2019）、Bourse Leenaards（2016）を受賞。Hublot Design Price（2016）のファイナリスト等多数。
<http://www.julierichoz.com>

Furniture collection line

SKETCH VASE

Julie Tolvanen

「溶けたガラスがハサミで切れることに驚き、いくつかの花器をスケッチして、文字通り熱いガラスから切り出すことにしました。ガラスを実際にカットする熟練のガラス職人が解釈した私のスケッチと加工されている間に起こる、生き生きとした、計画外のねじれや歪みから、さらに遊び心が生まれます。」 Sketch Vases は 2019 年の Helsinki Design Week で開催された「Puhdetyö」展で初めて展示されました。2020 年には、フィンランドガラス美術館で開催される「Finnish Glass Lives」展の展示作品として選ばれました。



CODE	JT0055
NAME	SKETCH VASE
SIZE	ϕ .130 x H.300 ϕ .175 x H.300
MATERIAL	Glass
COLOR	Pink,Grey, Dark green, Amber
PRICE	¥77,000- (excluding tax : ¥70,000-)



ジュリ・トルバネン

1970 年アメリカ生まれ。建築学科を卒業後、12 年間木工職人としての活動や大学やクラフトスクールにて家具デザイン、デザイン史コースの教鞭を執る。その後、フィンランドへ移住し Aalt University にて家具デザインの修士号を取得。2015 年、夫の Mika Tolvanen とフィンランドで Studio Tolvanen を設立。ヨーロッパ、北米、アジア圏の幅広いクライアントとプロジェクトを行う。

主な受賞歴は、Good Design Award from Chicago Athenaeum や Interior Products award from the Association of Interior Design Editors of Finland 等。

<http://www.studiotolvanen.com>

Furniture collection line

INTERACTION_BLANKET

Keisuke Nakamura

送信されたデータ情報を元に糸を織るデジタル織り機。

その工程におけるデジタルとアナログの境界域（技術的な限界領域）にバグを誘発させたものです。
本来そこにあるべきデータ上の姿が織られることで逆に消え、予定不調和な姿を描き出します。



CODE	KN0053
NAME	INTERACTION_BLANKET
SIZE	W.1,400 × D.1,800
MATERIAL	40% Wool, 60% Acrylic
PRICE	¥55,000- (excluding tax : ¥50,000-)



中村 圭佑（ナカムラ ケイスケ）

1983 年生まれ。静岡県浜松市出身。

2011 年に設計事務所＜DAIKEI MILLS＞を設立。商業空間や公共施設など様々なデザインプロジェクトに取り組みながら、一貫して人と空間の在り方について考え続けている。

2019 年には、社会の遊休スペースを時限的に占有し一般へ解放する運動＜SKWAT＞を開始。

2021 年より、多摩美術大学環境デザイン学科の非常勤講師を務める。

<http://daikeimills.com>

Furniture collection line

ESKER

Koichi Futatsumata

シンプルな形状・構造のチェアに対し、
ラインやサーフェイスへ独自のスムージングを施すことによって、
フレームから座面に至る全体が一体的フォルムを成したスタッキングチェアです。



CODE	KF2050
NAME	ESKER
SIZE	W.450 × D.468 × H.789 / SH.465 *stackable
MATERIAL	Frame : Beech, Seat : Urethane foam + Fabric
COLOR	Natural, Black, Gray, Red
PRICE	F1 / ¥96,800- (excluding tax : ¥88,000-)
	F2 / ¥107,800- (excluding tax : ¥98,000-)
	F3 / ¥118,000- (excluding tax : ¥108,000-)



二俣 公一 (フタツマタ コウイチ)

1975 年鹿児島生まれ。福岡と東京を拠点に空間設計を軸とするケース・リアル (CASE-REAL) とプロダクトデザインに特化する二俣スタジオ (KOICHI FUTATSUMATA STUDIO) の両主宰。国内外でインテリア・建築から家具・プロダクトに至るまで多岐に渡るデザインを手がける。主なプロダクト作品に、「HAMMOCK (E&Y)」「in the sky (E&Y)」「valerie_objects のためのカトラリー (valerie_objects)」「キウル ベンチ (Artek)」など。デザインした真空管アンプ「22 (EK Japan)」はサンフランシスコ近代美術館の永久所蔵品となっているほか、その他受賞多数。2021 年より神戸芸術工科大学客員教授を務める。
<http://www.casereal.com> <http://www.futatsumata.com>

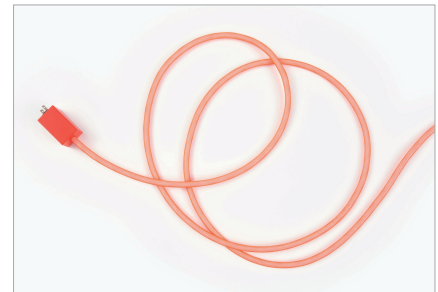
Edition collection line

STOP MAKING SENSE

Daisuke Motogi

見方を変えることで、今までの世界が全く違って見える。

そういう視点の移動を「リフレーミング」といいます。認知心理学や社会心理学から派生して、ビジネスや生き方の指南書でも良く目にする言葉です。壁のシミを壁のシミと捉えるか、模様と捉えるか。視点だけを変えることで、最小限の手数で意味をポジティブに変換することができます。



CODE	DM0054
NAME	STOP MAKING SENSE
SIZE	W.500 × D.61 × H.620 (cord : 10m)
MATERIAL	Frame : Aluminum
PRICE	¥218,130- (excluding tax : ¥198,300-) *Edition 5



元木 大輔 (モトギ ダイスケ)

1981 年埼玉県生まれ。2004 年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業後、スキーマ建築計画勤務。2010 年 DDAA 設立。2019 年、コレクティブ・インパクト・コミュニティを標榜し、スタートアップの支援を行う Mistletoe と共に、実験的なデザインとリサーチのための組織 DDAA LAB を設立。2021 年第 17 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展参加。

<https://dskmtg.com>

Edition collection line

INTERACTION_CHAIR Keisuke Nakamura & Kouki Kumagai

木工家具特有な製造過程を極端なまでに顕在化させ、
それ自体が新たな工法となり、
新たな形を生し、
許容を積み重ねることで新しい景色が生まれます。



CODE | KK2051
NAME | INTERACTION_CHAIR
SIZE | W.470 × D.560 × H.510 / SH.380
MATERIAL | Western hemlock
PRICE | ¥660,000- (excluding tax : ¥600,000-) *Edition 5



中村 圭佑 (ナカムラ ケイスケ)

1983 年生まれ。静岡県浜松市出身。2011 年に設計事務所<DAIKEI MILLS>を設立。
商業空間や公共施設など様々なデザインプロジェクトに取り組みながら、一貫して人と空間の在り方について
考え続けている。2019年には、社会の遊休スペースを時限的に占有し一般へ解放する運動<SKWAT>を開始。
2021 年より、多摩美術大学環境デザイン学科の非常勤講師を務める。
<http://daikeimills.com>



熊谷 晃希 (クマガイ コウキ)

1992 年北海道生まれ。武蔵野美術大学 空間演出デザイン学科卒業の後、設計事務所<DAIKEI MILLS>勤務。
2022 年独立。

Edition collection line

№8

Koichi Futatsumata

数理的フォルムを持つ、
植栽をセットする装置としてのオブジェクトです。



CODE	KF4012
NAME	№8
SIZE	W.658 × D.350 × H.550
MATERIAL	Stainless steel
PRICE	¥440,000- (excluding tax : ¥400,000-) *Edition 5



二俣 公一 (フタツマタ コウイチ)

1975 年鹿児島生まれ。福岡と東京を拠点に空間設計を軸とするケース・リアル (CASE-REAL) とプロダクトデザインに特化する二俣スタジオ (KOICHI FUTATSUMATA STUDIO) の両主宰。国内外でインテリア・建築から家具・プロダクトに至るまで多岐に渡るデザインを手がける。主なプロダクト作品に、「HAMMOCK (E&Y)」「in the sky (E&Y)」「valerie_objects のためのカトラリー (valerie_objects)」「キウル ベンチ (Artek)」など。デザインした真空管アンプ「22 (EK Japan)」はサンフランシスコ近代美術館の永久所蔵品となっているほか、その他受賞多数。2021 年より神戸芸術工科大学客員教授を務める。
<http://www.casereal.com> <http://www.futatsumata.com>

Edition collection line

THE AMBIENT MACHINE

Yuri Suzuki

パンデミックの状況の中、私たちは一つの住環境の中に今まで経験したことの無い量の時間を過ごしています。それは、身の回りの音に注目する良いチャンスでした。外から入ってくるノイズ、家の中から発せられる音、反響音。この The Ambient Machine は様々な音による効果を私たちに与えてくれます。

例えば、ホワイトノイズによる音のマスキング、そこにパターンを与えることで生活にリズム、そして安堵をもたらしてくれます。それから、BGM（バックグラウンドミュージック）としての機能、エリックサティに始まりブライアンイーノによって定義されたアンビエントミュージック。スイッチを切り替えることにより、その日の気分にあった BGM を作り出すことができます。音を作り出す贅沢な体験、お楽しみください。



CODE	YS0057
NAME	THE AMBIENT MACHINE
SIZE	W.264 × D.135 × H.177
MATERIAL	Walnut, PCB
PRICE	¥110,000- (excluding tax : ¥100,000-) *Edition 20



スズキ ユウリ

1980 年東京生まれ。99 年～2005 年、アートユニット明和電機に携わり「音楽とテクノロジー」に関心を持ち、2005 年 Royal College of Art へ入学。音楽と音がどのように思考に影響を与えるのか、音と人の関係性について提議した作品を制作し、そのサウンドアート作品とインスタレーションは、世界中の展示会に展示されている。2013 年より、Royal College of Art のデザインプロダクツ科にて教鞭を執り、ニューレディオフォニック・ワークショップのメンバーとしても指名される。2014 年には、DIY 楽器 OTOTO が MoMA のパーマネントコレクションに選定された。2018 年より、世界最大のインディペンデントデザインコンサルタンシー Pentagram で共同経営者を務める。

<https://yurisuzuki.com>

お問い合わせ

読者お問い合わせ先

E&Y CO.,LTD.
・WEB <https://www.eandy.com>
・TEL 03-3481-5518

プレスお問い合わせ先

HOW INC.
・MAIL pressrelease@how-pr.co.jp
・TEL 03-5414-6405